ひめゆり通信

第156号
2019年2月15日号
http://hozanji-wel.org/

主な目次

● 巻頭言 …… 1
● 各施設からの報告 …… 2
● 法人研究発表会 …… 11
● 海外視察報告 …… 12
● 海外研修生実習報告 …… 14
● 法人主任研修 …… 15
● ボーイスカウト40年記念式典 …… 16
● 月曜会研修 …… 17
● 全国表彰 …… 18
● 法人年頭連絡会 …… 20

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257 奈良県生駒市元町2-14-8 桃李館内 TEL:0743-74-1172 / FAX:0743-74-1911

「平成三十年度を振り返って」

宝山寺福祉事業団理事長　辻村　泰範

平成三十年度もあとわずかで終わろうとしている。続いて平成三十一年度になるのだが、この平成三十一年はわずか一ヶ月しかない。法人の会計年度は四月一日に始まり翌年の三月三十一日に終わると定められているのだから、定款の定めにそのまま従えば、平成三十一年度となるのだが、五月一日には改元されるのだから実質十一ヶ月は新しい元号が全ての文書に適用される。少し妙な気分が残る。

ところで今年度を少し振り返ってみると、平成三十年を表す漢字に「災」の字が選ばれたように、日本列島各地を襲った災害が大きな話題になった。被災者の皆様には改めてお見舞いと弔意を表したい。幸いにして法人の各施設には大きな被害はなかったが、改めて防災や被災時の対応、災害支援のあり方について見直し考えさせられることとなった。特に災害支援のあり方については、国、県、各種別協議会が具体的な支援マニュアルの策定やシステムを提示しつつあるので我が法人も積極的に取り組んでいきたいと考えている。

年度始めに、生駒市からの強い要請でもあった保育所入所待機児対策として申請していたいこまこども園の乳児保育棟の増築工事の補助が内定し、いよいよ施工業者の選定に入ったのだが業者の辞退が相次ぎ、どうなることかと案じられたがどうにか着工に取り掛かることができ一月十八日には上棟式を行った。なんとか年度内に完成させ、生駒市で子育てに力を注いでいるお母さんやお父さんの期待に応えたいと関係者一丸努力を注いでいるところだ。

二十九年の夏に厚生労働省の検討会が発表した「社会的養育新ビジョン」は関係業界に大きな波紋を投げ掛けた。直接その影響を受ける児童養護施設愛染寮、いこま乳児院を抱える我が法人にとってはその帰趨によっては大きな影響を受けることになるので、三十年度の国や県の動向、全国の児童養護施設や乳児院の協議会の対応が大いに気になるところであった。主要な業界紙である福祉新聞社もこれを大きく取り上げ、様々な事情で家庭での養育が困難な児童の問題について、児童相談所のあり方、児童養護施設や乳児院の役割、里親のあり方などについて問題提起し斯界に広く意見を求めることになった。私自身もその取材に応じ、また十月に東京ビッグサイトで開催された福祉新聞フォーラムでは社会的養護のあり方について講演して私なりの意見を表明した。国は、この新ビジョンに基づいて各自治体に推進計画の策定を求めている。字数の都合で詳細を省略せざるをえないが現実離れをした理想論に振り回されないように地に足の着いた計画の策定が進むようこれからも目が離せない。

法律の改正に伴って、我が法人は特定社会福祉法人に分類され監査法人による法定監査を受けることになり初年度が過ぎた。国は特定社会福祉法人の経営規模の基準を順次引き下げ公認会計士や監査法人による監査導入を拡大させる目論見であったが、三十一年度の引き下げは見送られ、導入効果の実態アンケートが実施された。内部統制の向上など実務上の効果が実感されるものの受審に関わる事務職員の負担は相当なもので、財務情報の正確性を担保するという目的に対しての費用対効果という面では社会福祉法人に必要な仕組みであるのかどうか未だに疑問がある。

三十一年度に向けて様々な課題が見えてきている。また表面化してはいないが時を経ずして本格的に検討しなければならない問題も浮き上がりつつある。社会福祉法人としての意義と役割を自覚して、気合いを入れて新年度に向かわなければならない。

高齢者施設より

デイセンター寿楽

これから、一緒に

センター長
伊藤　智宣

昨年より、生駒市内のデイサービス４事業所の生活相談員が中心となり、今後のデイサービスのあり方などを話し合う場を設けています。デイセンター寿楽のような単独事業所にとっては、非常に有意義な場となっていると思います。どうしても規模の問題で、同じ職種や同じ立場で話をする機会が少ないからです。同じ職種や同じ立場であれば、悩みにも共感しやすいでしょうし、遠慮なども少なく話ができると思います。

今この４事業所の相談員たちは、サービスマナーについて考え、向上への取り組みとして、昨年末には４事業所合同で、サービスマナーについての常勤職員を中心に研修を実施しました。研修の内容もごく一般的なものでしたが、日々の業務から離れ、時間的な余裕を感じながら、自分の姿やご利用者に対しての接し方を見つめ直すよい機会だったのではないかと思います。各事業所に戻り、全職員とサービスマナーの向上に努めてくれることだと思います。

同じ法人でありながら、各デイサービス間の職員の交流は少なかったように思います。このような機会を設けることで、日々のサービス提供に意識が集中することで井の中の蛙になってしまうことも多いです。法人内でありますが、互いのデイサービスがどのようにケアを提供しているのか、どのような取り組みをしているのかを知り、今後のサービスの向上に努めていきたいと思います。

あくなみ苑

平穏無事

総合施設長
田中　将史

昨年の４月よりあくなみ苑の総合施設長の任に就き、特に大過なくお正月を迎えることができました。これも偏に各部署の主任さんをはじめとする中堅職員のおかげだと思っております。４月から入職した新人職員においてもそれぞれ一人立ちし、ベテラン職員と肩を並べる位に成長してくれています。そんな中、特養のご利用者から昨年作らなかったお正月の門松を「今年は門松、作ってくれるんやろ？」と言われたことをきっかけに、相談員とデイの主任とで門松を作ることができました。ご利用者はもちろんのこと、ご家族や職員にも喜ばれ、良かったように思います。

今、あくなみ苑では、各種委員会の他に介護職を中心に様々なプロジェクトチームが動いています。その取り組みや成果については季刊誌等で今後も発信してまいりますので、少し気にかけていただけたら嬉しいかぎりです。ご利用者により良いケアが提供できるように、職員一人一人がやりがいを持って働けるように頑張ってまいりますので、老人総合福祉施設あくなみ苑、今後ともよろしくお願い申し上げます。

延寿

小さなことからコツコツと

施設長
井上　太

一年が過ぎるのが本当に早い。「あれをしなくっちゃこれもしなくっちゃ」とバタバタとしている内に暮れも押し迫ってきた。いやいや平成も三〇年が過ぎ、後数か月で今上天皇の退位も決まっている。共存と繁栄の願いを込めた昭和から、平成に変わったのが、泡と消える繁栄を謳歌するバブル景気真っ只中だったように記憶している。そして天地ともに平和が達成できるようにとの願いを込めた平成は、私たちの価値観まで変えてしまうような阪神大震災や東北地方太平洋沖地震をはじめ、記憶しているだけでも北海道、新潟、大阪、鳥取、熊本など、日本列島が次々と大地震に襲われた。また雲仙普賢岳や有珠山などの噴火、川をえぐり家々を下流に押し流した豪雨、更には災害級の猛暑、ありとあらゆる自然災害に毎年のように苦しめられた平成であったように思う。奇しくも今年の漢字には「災」が選ばれた。一方、2001年にスタートした延寿は十八年が経過しようとしている。三年ごとの介護報酬改定に翻弄され、また人材の確保に四苦八苦し、「三歩進んで二歩下がる」ではないが、事あるごとに何度も何度も体制を立て直すこととなった。しかし決してあきらめず前を向き、声を掛け合って、コツコツと積み上げてきた姿が今の仲間たちである。手前みそながら随分成長したのだと思っている。これからも決して順風満帆とは行かないであろう。時代とともに変化するニーズ、変わらぬ困りごと、地域にどう応えられるのか。明日からもまた、“手間暇惜しまず丁寧に”をモットーに驕らずコツコツと研鑽を積もう。

デイセンター憩の家

これからも繋がりを大切に

センター長
森本　公子

今年度も、ご家族との繋がりをたくさん持たせていただきました。

家族会を始め運営推進会議（地域密着型サービス事業者がサービスを開示し透明性を明らかにするため自ら設置する会議）にも地域の代表の方と共に参加していただき貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。その中で「家族介護って何でもありだと思っている」と言われたのです。何でもありとは、あきらめではなくゆとりからくる「何でもあり」だったのです。「意味のないことを言ったり、困ったことをします。だけど、いちいち怒っていたらキリがない自分が余裕を持つことで本人も落ち着く、それで自分も楽になる」と言ってにっこりと笑顔になられました。いつも感じていることは家族会や運営推進会議を開催する度に逆に私たちが力を頂いている事です。本当に感謝です。今後も様々な行事を計画しておりますので憩の家にいつも関わっていただいています皆様のたくさんのご参加をお待ちしております。

散策

梅寿荘デイセンター

積み重ねてきた機能訓練

センター長
森本　公子

機能訓練に取り組んで、もう４年近くが経とうとしています。職員はコツコツと熱心に毎日、機能向上に取り組んでくれています。しかし当時いつも気になっていることがありました。それは入浴が始まってしまうと職員はバタバタと忙しくなるのですが反対にご利用者にとっては結構退屈な時間になります。サービス精神旺盛な私達としては、とても気になる時間帯です。「せっかく色んなアイテムがあるのに、これを活かさないと勿体ない！」数字合わせの脳トレや間違いさがし、座っているだけで足首の可動域の運動ができる機器などを使って、ゆっくりと心身機能を鍛えていただいています。

また昼食後から機能訓練やレクリェーションが始まるまでの、この時間もとても気になる時間帯です。懐かしの歌声喫茶をしてみてはどうでしょう？との職員からの提案でピアノの演奏に合わせて毎日、お腹から声を出して歌っていただいています。

歳を重ねることで体調や心理的に様々な変化がある中で少しでも「楽しい、ワクワクする！」を感じていただくことができたら、こんなうれしいことはありません。もちろん本格的な機能訓練も引き続き頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

お散歩の途中でちょっと遊びに来ました！

梅寿荘

略語造語に注意

次長・施設長
松岡　利和

昨年末、ある研究発表会に参加し、介護福祉の専門用語の研究について耳にする機会がありました。「認知症」のことを「ニンチ」と呼ぶ風潮が業界内の一部に見られるとのことでした。

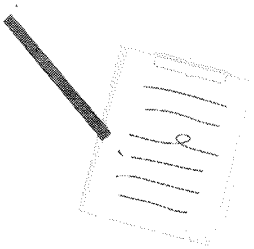
以前は「痴呆症」という言葉があり、侮蔑的な意味合いが含まれ、病状が正確に表現されていないことから2004年頃に「認知症」という表現が最適であると厚労省が発信しました。介護、医療などの関係団体でもこの呼称に改める取り組みが進み、現在は世の中に浸透しています。

「ニンチ」という表現はどうでしょう。略語造語が入り乱れる我が国では自然と発生した単語のようにも受け止められます。実際の会話の中で「あの人ニンチあるなあ」「(年配の者同士で) あんたもニンチが始まってるで」のように使うとどうでしょう。

「認知症」は本来、アルツハイマー型、脳血管性などのいろいろな種類がある病名ですが、共通的な症状である、記憶力や判断力の低下を総称した表現でもあります。前述の会話例でも特有の症状を指して「ニンチ」と使っています。

正しい呼称をくずすことで、使い方が無秩序になってきます。「認知症の人と一緒に誰もが暮らしやすい地域を」と「ニンチが始まったらやばいで」では単なる略語ではなく、新しい侮蔑語に変換されています。

漢字表記では侮蔑的な意味を取り除いたのに、使う人が昔ながらの意味を込めてしまっていては埒が明きません。問題がまだ小さいうちに摘み取っておく必要があります。この風潮を察知し、業界内から差別的単語を生み出さないようにという願いのこもった研究に共感しました。その活動を自分もおこなっていきたいと思います。



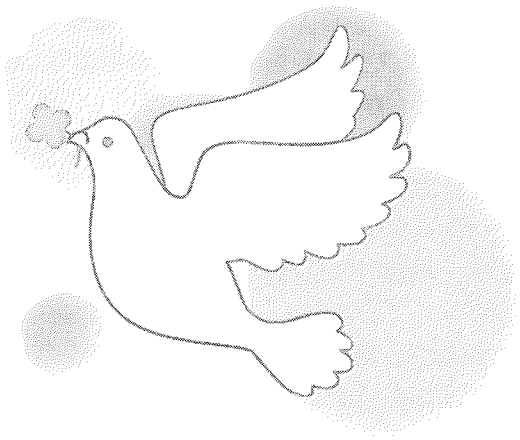
梅寿荘居宅支援センター

日々自己研鑽を

センター長
斉藤　洋子

現在事業所には8名のケアマネージャーが所属しています。経験年数は、2年から10数年のベテランがいます。介護保険がスタートした平成12年当初は、一度資格を取得すれば生涯有効と思っていました。しかし、より質の高いケアプランの作成を求められるようになり、また地域包括ケアを担う一員としての知識や技術を高めて行くために、平成18年度から5年ごとに更新研修の受講が義務付けられました。昨年も3名の職員が受講し、今後も随時受講を予定しています。業務の合間に提出用の事例をまとめ、必要な書類の準備など研修に参加をすることが負担に感じることもありますが、研修を受けることで最新の情報が得られ、多様な問題を抱えるケースの支援をして行くための知識や視点に気づかせて貰えます。

更新研修や外部研修で得た知識を職員相互で共有し、定期的に行う事例検討会を通して事業所全体の能力向上に繋がればと考えています。多様な課題を抱える利用者が安心して在宅で暮らし続けられる様、職員それぞれが日々研鑽を行い頼れる居宅事業所を目指して行きます。



梅寿荘地域包括支援センター

ある日の出来事から

センター長
岩井　香奈子

先日出勤の途中で、高齢者が道に伏せて倒れ込んでおられました。急を要することかと慌てて運転していた車を道の傍らに停め駆け寄ると、意識はあるものの普通ではないご様子でした。周りの人に手を借りようと「誰か…」と声を出そうとした瞬間に、通りがかりのご婦人が「何か出来ることがありますか？」と、車を停め手助けを申し出て下さいました。続いて別の車から男性が降りて来られ、偶然その倒れている方の家を知っているからと、急ぎご家族に様子を伝えに走って行かれました。するとまた、先ほどこちらを気にかけながらも先を急いで行かれた若いお母様が、子どもの通園の段取りが終わったからと、様子を見に戻って来られました。たった数分の出来事でしたが、そのあとは無事に家族に繋がり、通院されてご本人も通常の生活に戻られています。

この日手を貸して下さったのは、偶然通りがかった地域住民の方々でした。人にはお互いに助け合い、支えあうことが自然にできるような力が備わっていることに今更ながら気付かされました。地域包括ケアの深化に向けた実践とは何か、地域共生社会の実現に向けた取り組みについてはどうかと、ちょうどスタッフの皆でそれらの課題を考える機会の多い時期の出来事だったので、悩みが晴れるように心が軽く温かい気持ちになり、新しい年度に向けて力が沸いて来るような気がしました。地域包括支援センターが取り組んできたこの一年の計画を振り返り評価した上で、新年度の課題をしっかり整理していきたいと思います。

職員一同

児童施設より

でぃあー

地域支援の充実を目指して

センター長
森山　貴司

昨年度に厚労省からは、発達障害者支援センターのこれからの方向として「地域の身近な場所で受けられる支援」「ライフステージを通じた切れ目のない支援」「きめ細かな支援」が示されました。

これを受けて、でぃあーでは今年度から5か年で市町村相談支援のシステム化を県と共に取り組んでいます。現在でぃあーでは幼児から青年までの相談支援を行っていますが、地域の行政機関はその動向と実態を十分に把握するに至っていません。そのために地域に住む方々にとって支援が必要な時期に必要な支援をしていくことが難しい状況があります。また、県内では地域差があり、支援の格差があることが調査で分かりました。

そこで県内の支援を調整していくためにシステムのマニュアル化が必要となりました。でぃあーでは、県と連携しながら医師を顧問としてマニュアル作りを進めていき、10月に発達障害一次相談支援マニュアル「リンクスタート」を完成させました。今後、このマニュアルをもとに相談支援システムを構築して、市町村での身近な支援につなげていきたいと考えています。今年1月より県内の五つの圏域ごとに一次相談支援研修会を開き、相談体制の整備を行っていきます。そして4月からは本格的に市町村への支援を行い、順次市町村基点の相談ができるように支援を拡充していく予定です。

支援マニュアル説明会

平城児童センター

曽爾高原での活動

センター長
徂徠　おさむ

十一月三日から四日にかけてすすきの波揺れる曽爾高原でキャンプを行いました。学校での事業と重なる時期でしたが児童及び職員で二十三名の参加がありました。

初日は昼間は銀色に、夕暮れには黄金色に映えるすすきを見ながら亀山峠へのハイキングやお亀池周辺の曽爾高原を散策しました。

国立曽爾青少年の家の行事「夕べのつどい」と「朝のにつどい」に参加し子どもたちの代表が平城児童センターの紹介を元気に行いまた国旗降納のお手伝いなども行いました。

夜の活動、チャレンジハイキングでは初めて小学校六年生の二人が司会進行を行いました。これからも児童の意見を積極的に取り入れた活動を計画していきます。

翌日はフィールドアスレチックの予定でしたが降雨のためカプラと木製のドミノ倒しに変更しました。ドミノは途中で何度も倒れましたが、協力して繰り返し並べてやっと完成しドミノ倒しを満喫しました。二日間のキャンプでしたが色々な活動に共に取り組むことができるようになり仲間意識が一層高まったのではと思いました。今後とも遊びや様々な体験活動を行っていきたいと思います。

代表でセンターの紹介

愛染寮

年末年始雑感～食べて飲んで笑おう！

寮長
末松　保喜

12月31日23時50分頃…子ども達と職員は暗い中滝寺の本堂に集合します。そして住職さん副住職さんによる読経が始まる中、宝山寺の鐘の音も聞こえてきます。私が１年のうち最も好きなひととき一住職さんの新年のご挨拶の後、子どもも大人もそれぞれに「おめでとう。」「今年もよろしくお願いします。」と言い合います。この年またぎの瞬間を共有できることが幸せであり、誇りです。外に出ると年が改まったばかりの清々しい空気、私達愛染寮ならではのこの風景が全ての原点なのだと毎年しみじみ感じます。

２日には宝山寺へ参った後、あすなろ会のメンバーさん達と子ども達とが一緒になっての、恒例すきやきパーティーの始まりです。そこは笑顔であふれています。

実は、元日私の所に１本の電話がありました。「寂しい。12月１月は家族が集まって楽しい季節だから嫌い。」と言うある卒寮生でした。ついに名乗ってくれませんでしたが、「明日ここへ来て下さい、一緒にすき焼き食べましょう。」という私の誘いにも電話は切れました。…誰なんだろう。この場所に寄りたくても寄れない人はいるでしょう。しかしそれでも伝えたい。「一緒に食べて飲んで、笑いましょう！」来年はあなたと会えますように。

年女の中野姉ちゃんがすき焼きパーティーの合掌です。

あすかの保育園

成長する為に…

園長
小林　美香

４月、泣いていたお友だちも今ではすっかり「あすかのっ子」になって、元気いっぱい笑顔で過ごしています。子どもの成長の速さにビックリですが、私たち職員はどんな風に成長できたのか問われると…子どものようには成長できていないのが現状です。

平成30年度保育所保育指針が改訂になり、“振り返り”が大きく問われるようになりました。自分を振り返ることで、次につながる保育ができるようにして行く為に、保育の捉え方、視点のつけ方、また記録のポイントなどを共通理解できるように園内研修を持ちました。少しずつですが、保育や記録の書き方に変化がみられるようになってきました。

2019年、職員一人ひとり自分を振り返りながら、研修や会議などで理解を深められるようにしたいと思います。そして目の前の子どもたちの思いに共感し寄り添い、また子どもたちと毎日「楽しかったね」と言える保育ができるよう職員一同成長してきたいと思っています。

児童発達支援センター　仔鹿園

今一度振り返ってみよう

園長
岡本　とも子

昨年、周年事業も終え、老朽化による工事も一応は終わり、日々を大事にしながら31年度は緩やかに過ごせたように思います。

しかし、児童発達支援の法改正後、世間はなんだか慌ただしく「これで良いのでしょうか」「少し研修させてください」「指導をお願いします」と随分とご相談がありました。培ってきた仔鹿園の療育はお手本となるものなのか、ポイントを押さえて助言を差し上げられるのか、不安ながらもお手伝いをさせて頂きました。

それが、私たちに課せられた役目ですから。

とは言え、今居る子どもたちの関わりは十分だろうか、保護者への支援は相手の心に寄り添えているのか、療育内容はマンネリ化していないのか、振り返りながらひとつずつ「よし！」と確認しながら前へ進むことが大切だと思います。

春になるとまた新しい事が始まります。その時、「去年通りで…」ではなく「今年はこんな風にしよう」と前向きに取り組みたいと思います。

振り返り反省するばかりでなく、それを踏み台に成長しなければ。

いっぽ

内に秘めたる力

児童発達支援管理責任者
長野　智子

今年の干支、「亥年」の意味を調べていると、その中で十二支はそれぞれ季節が割り当てられていて、「亥」の季節は「冬」だそうです。春の芽吹きが来るまで、じっと固い種の中でエネルギーを内に込めている、そんなイメージが「亥年」の持つ意味だそうです。いっぽに来る子どもたちは、小さな「家」という社会から、ちょっとだけ大きな社会に初めて足を踏む入れる段階だと考えると、力をしっかり蓄えて種から芽が出て素敵な花になるように、私たち大人はしっかり水と栄養を注いでいかなくてはなりませんね。そして、出来れば負のエネルギーではなく、前向きな豊かなエネルギーを子どもたちが蓄えられますように。そんな１年を願って、「亥年」をみんなで過ごしていきたいと思っています。

獅子舞さん、頭噛んで～

いこま乳児保育園

園内研修（担当制の振り返り）

園長
家治　圭子

担当制を始めてから約10年が経ちました。初めは、どのようにやっていけばよいのかわからず職員も戸惑っていました。今は何のこだわりもなくスムーズに取り組んでくれていますが、その当時は色々な葛藤やいらいら感もあったように感じます。長年月続けてくると慣れてしまい、一人ひとり丁寧に見てあげなければいけないのにだいたい出来ていると見守りだけになってしまうこともありました。

今年度は各クラス困っている・悩んでいる一部分を主任がビデオ撮影し、各クラスで研修をしました。職員より「自分たちの保育を振り返ることにより、当たり前になっている行動が第三者の目から見てもらう。自分たちの目で確認することにより職員間のやり方のずれがみられ、話し合う機会を持つことが出来統一することができた。又、悩んだ時には、ビデオ撮影をし、客観的に自分たちがどうあるべきなのかを振り返りたい。」と感想をもらいました。常に子どもの視点に立って、より質の高い良い保育の実現に取り組み、専門性の向上に努め、良い保育が提供できるようにこれからも続けていきたいと思います。

いこま乳児院

今年度を振り返って

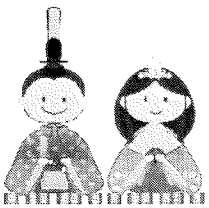
院長
辻村　万里子

新養育ビジョンに則り、乳児院の機能強化に向けて取り組んだ一年でした。関わりの難しい児の養育スキルを高める為に、障がい児施設で実践研修を受けたり、講師を招いて研修会を開催しました。また、恒例の職員旅行を施設見学に変えて個々の職員が乳児院を見直す機会としました。

施設整備では、照明器具をLED照明に取り替え、また県補助金を得て施設内のICT化を進め、事務処理の省力化を図りました。

その他多額の遺贈金を頂戴しましたので、子どもたちの為に大型遊具や五月人形一式を新調する予定です。

乳児院が必要とされる限り、子どもたちのもう一つのお家として、一人ひとりを大切に健やかな成長を見守っていけるよう、職員は常に研鑽を積んでいかなければと気を引き締めています。



あすなろ

一年を、そして平成を振り返り

センター長
西野　敦

今年は、「平成」の最後の年にあたります。日本では、この三十年間様々なことがありました。とりわけ、阪神・淡路大震災、東北大震災など数々の自然災害に見舞われた三十年であったように思います。

日本で災害が起きた時には、いつでも秩序正しく、みんなが被災で苦しんでいる中でもお互いに助け合います。このような行動は日本では当たり前のことと思いますが、海外では暴動、略奪などが横行することが多々あります。世界から見れば、日本人の行動は奇跡のように思われているのです。

この日本人の民族性は、新しく年号が変わっても未来永劫受け継がれていくべきものと思います。

さて、今年の干支の「亥（いのしし）」は、十二支の最後に来る干支であることから植物に例えると「生命力が閉じている」ということで、果実が種子となっている状態になることだそうです。そして、その次の「子（ねずみ）」の年にしっかりと生まれて来られるように「エネルギーやパワーを蓄えていく。次のステップに向けて準備していく年」という意味を持つそうです。

あすなろの子どもたちも今年4月には、新しいクラスに移ったり、進級したりと、それぞれの新しい一年を迎えようとしています。それぞれの発達に応じて、みんな大きく成長していく一年であってほしいと願っています。

いこまこども園

青丹よし奈良

保育教諭
出口　智子

11月23日、職員研修に参加させて頂きました。研修内容は元興寺参拝と切り絵でした。元興寺には新人研修の際に見学させて頂いて以来でした。今回はじっくりと時間をかけて日本最古の瓦や阿弥陀如来坐像、弘法大師座像や聖徳太子立像など様々な重要文化財を見ることができました。智光様が夢で感得された極楽浄土の絵であるご本尊の「智光曼荼羅」や柱に刻まれた文字など1300年もの歴史があり、今もなお残っていることに感銘を受けました。また、いこまこども園の、のの様が元興寺から来られたものだと初めて知りました。ありがたいお地蔵さまに毎日見守っていただいていることを思って感謝しながら、日々保育していきたいと思います。

午後からは切り絵作家の西村幸祐先生に、切り絵の魅力を教えていただきました。先生の作品である仏像の切り絵は、黒と白のモノトーンでとても趣がありました。自己流で切り絵を考案されており、細かい部分まで丁寧に表現されていました。実物の仏像とはまた違った印象を持ちました。今回の切り絵の題材は東大寺金剛力士像「阿形」と「吽形」から一つを選び、取り組みました。使用するカッターは市販の物より鋭利で細かい部分も切りやすい物でした。切り方のポイントを伺い、カッターの持ち方や紙を回しながら切ること、角は少しオーバー目に切ることを意識しながら切りました。時間をかけて丁寧に慎重に切りましたが、滑らかな線というのは難しいもので、なかなか納得のいく形にはなりませんでした。しかし作品の出来栄えよりも、切り絵に打ち込むことのできた数十分は、雑念を排除し集中することができ、有意義な時間を過ごすことができました。

今回の研修を通じて、奈良の寺院や仏像の魅力を再発見することができ、古き良き地に生まれ育ったことを改めて感じました。地元である奈良を愛し、またその心を子ども達に伝えていきたいと思います。

元興寺にて集合写真

切り絵体験

極楽坊保育園

公開保育を終えて

園長
松村　善子

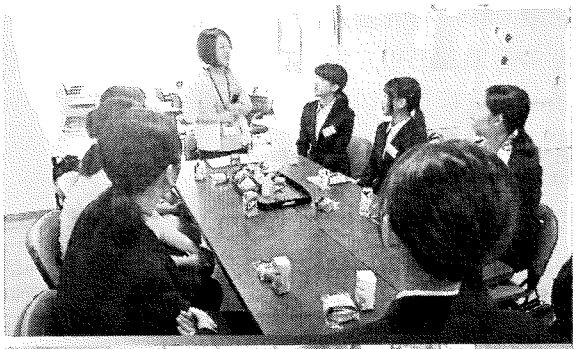
春から準備してきた「造形表現・図画工作・美術教育研究全国大会の公開保育」を昨年の11月15日に終えました。全国から来られた90名近い先生方には、１週間前に終えた作品展で完成した奈良の町と共に０歳児から５歳児の子ども達の造形表現の活動を見ていただきました。奈良の町では、「素材がいろいろな形に変化していることに驚かされます」、また様々な素材や用具を使って、感触を味わったり、見立て遊びや造形表現を楽しんだりするクラスの様子を見て、「どのクラスの先生も笑顔が素敵ですね」「子どもたちの遊びがどんどん広がって見ていて楽しくなります」「子ども達も先生も本当に楽しそうですね」…等と当日だけでなく後日お会いした先生からもうれしい言葉をたくさんかけていただきました。公開保育園の助言者を受けてくださった大阪信愛学院短期大学の原田先生が「表現するために、まず大切なことは、感じること」そして、「子どもよりもまず先生が率先して遊んで楽しむことが大事」と何度もお話ししてくださった言葉が、保育の中にしっかり根付いたと実感した先生方からのお褒めの言葉でもありました。

これからも「素材との出会いや様々な表現を楽しむ」表現活動を大切にしながら、子ども達と遊びこむ姿勢を忘れず、日々の生活や遊びの中で、子どもと共に実体験しながら、共に感じ、共にいろいろな表現を楽しんでいけたらと思っています。

子ども達の遊びを見学する参加者

ホールいっぱいに造られた奈良のまち

31年度新採用職員内定式



新採用職員内定式（１回目）を平成30年10月13日（土）に総合支援センターあずさにて執り行いました。フレッシュな新人さんが採用試験以来、元気な顔を見せてくれました。

先ずは理事長から宝山寺福祉事業団の仲間として迎えるにあたり歓迎と激励の言葉を頂きました。何より法人の始まりの話には強い印象を感じていただけたことだと思います。児童部門、高齢者部門から先輩たちが駆けつけ、周りに支えられながら、かけがえのない自分だけの経験と成長を先輩らしいナイスな応援のメッセージとして伝えてくれました。学生から社会人という違う世界に対して不安もある中で、きっと心強いものとなったことだと思います。最後はおやつタイムに新人トークで大いに盛り上がりました。

あと残り少なくなった学生生活を十分に満喫してほしいものです。

２月には新採用職員内定者研修会、３月26日、27日には新採用職員辞令交付式及び研修会があり、それを終えるといよいよ仲間同士、共に高みを目指して歩んでいきましょう！

森本公子

第22回 法人研究発表会

あすかの保育園　小林美香

平成31年1月27日に生駒市コミュニティーセンターにて、第22回法人研究発表会を開催いたしました。

今年度は「学びを実践に」を大会のテーマとして、第1部では児童部門の3施設からの発表と、法人各施設が取り組んでいる業務実践・業務改善をポスター形式で発表して多くの方々にご覧いただきました。第2部では「笑顔がつながる　うたあそび・おとあそび」と題して、〝さわむらしげるとにこにこ楽団〟の演奏を、ご来場の方々と一緒に楽しみました。

発表1は、愛染寮の『じぶんの気持ちとひとの気持ち』と題して、子ども達のコミュニケーション不足によるトラブル解消の為、3年前より「セカンドステップ」に取り組んできた成果を発表されました。日常生活において職員の声かけでセカンドステップのスキルを使ったり、子ども自身が自分でスキルを使ったりする場面が見られて、自分で感情のコントロールをしようとする姿が増えてきたという報告でした。

発表2は、あすかの保育園の『楽しいあそび・豊かな育ち』と題して、子ども達が様々な感覚を使って過ごす中で、保育士がどのような視点を持ち、保育を行ったのか、1歳児クラスの実践を通しての子ども達の変化を報告されました。まず保育士との愛着関係を深め、一人ひとりの子どもの特性を知り、子どもの欲求に合わせた環境を整え、共感することで心も身体もほぐれて遊びの幅が広がったとの報告でした。

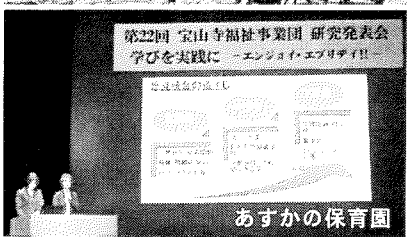
発表3は、いこまこども園の『メンター制度を取り入れた職員育成』と題して、仕事上の悩みや課題を入職1・2年目の職員（メンティー）が相談しやすいように、経験・年齢の近い3・4年目の職員がメンターとなりペアを作り、やる気を引き出しながらメンタル面を支えていけるような取り組みを報告されました。職員間のコミュニケーションが増え、生き生きと働ける環境が整いつつあるので、課題を整理しながら今後につなげていきたいという発表でした。

ポスター発表は13施設がそれぞれの職場での組織活性化、業務改善、サービス・処遇向上、地域連携、保育内容などの分野の取り組みが分かりやすくポスターにまとめられていて、部門を問わず、参考になるものでした。

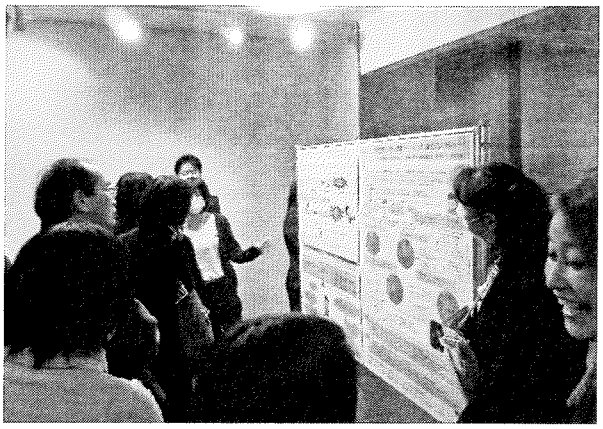
講評では、武庫川女子大学発達臨床心理学研究所研究員の才村眞理先生にお願いをし、発表施設には、具体的なお話を通して今後の取り組みや課題を明確にして頂きました。

第2部はさわむらしげるさんのトークや様々なうたあそび、楽器あそびを会場の方々と共に一緒に歌い、踊り、笑い、心から楽しめる内容でした。

次回の研究発表は高齢者部門です。どうぞご期待ください。



あすかの保育園



ポスター発表

平成30年度 役員会報告

第2回理事会　平成30年12月10日
梅寿荘研修室

第1号議案
平成30年度第一次補正予算案について承認を求める件

第2号議案
就業規則の一部改正について

第3号議案
上半期事業の概要報告

第4号議案
理事長並びに業務執行理事の職務執行状況について報告

理事会

海外視察報告

～デンマークの福祉現場・政策を学ぶ～

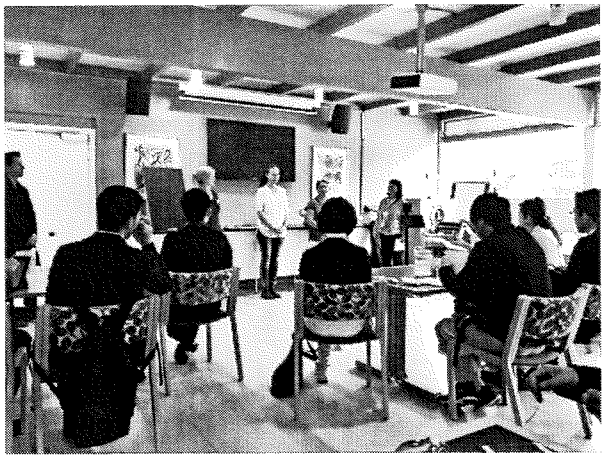
極楽坊保育園　副園長　辻村　泰聡

昨年の9月に、全国青年経営者会の主催する海外研修に参加する機会を得て、デンマーク王国の首都、コペンハーゲンを訪問した。彼の国は、「福祉先進国」「高福祉・高負担」といわれる北欧にあって、世界一幸せな国と称されることもある。我が国の福祉関係者にとっては、事あるごとに「北欧では、デンマークでは…」と崇め奉るアイドル的な存在であるが、実際に目の当たりにした人は少ないのではないか。全国から集まった20名余の青年の経営者・リーダークラスのメンバーとともに、福祉の現場を1週間かけて視察することで、そこにはどんなカラクリがあるのか、我々が学ぶべきことは何か、新たな発見を求めて日本を飛び立った。

デンマークは九州ほどの広さの国土におよそ580万人の人口で、首都であるコペンハーゲンの人口はおよそ60万人、日本の20分の1の規模感といったところか。コペンハーゲンの市街地は、現代的な高層ビルよりも石畳の歩道にレンガ造りの建物が目に付く、歴史を感じさせる街並みである。まず面食らったのは物価の高さ。物価そのものも高い上に消費税（VAT）は25％で軽減税率もなし。晩御飯を外食しようと思えば最低4千円、ビール1杯飲むのにも軽く千円はかかるのである。デンマークの給与水準もその分高いようであるが、我々日本人にとってはかなりの痛手だ。しかしこの高い税率によって、デンマークご自慢の福祉は成り立っているというわけである。彼らにとっては、納税が社会への貢献だという意識が高く、納税者となることが社会人としての誇りでもあるそうだ。日本人とは税に対する感覚は随分違っているようである。

＜高齢者施設＞

今回訪問したうち1か所は、プライエムと呼ばれる、いわゆる特養である。もう1カ所は、プライエムと介護付き住宅の複合施設。あと1か所はデイセンターであった。プライエムには、要介護状態の高齢者が入居するのだが、その部屋の間取りや置かれている家具は普通のものと何ら変わらず、また、通路や中庭を歩行器を使って一人であちこち歩く姿も見られた。デイセンターは地域の活動センターとの併設で、あずさの地域交流ホールのような雰囲気であるが、介護予防体操もジムさながらの運動機器があったり、洋裁や絵画の道具の揃う部屋もあったりと、ハード面でも充実した設備が整っていた。視察したどの施設でもそうだったのだが、高齢者の皆さんがスタッフの介助に頼ることなく、思い思いに活動をしているような印象を受けた。



＜児童施設＞

コペンハーゲンから北に約25㎞にある、カスタニエバッケン保育園を訪問した。デンマークには幼稚園・保育園の区別はなく、また保育料の負担がある。小学校以上の教育はすべて無償なので、この点は少し意外であった。しかし、有償であってもほぼすべての子どもが就学前教育を受けているようだ。この園は、定員100人で乳児約40人、幼児が約60人に対し、有資格の保育者が11人と、日本と比べても特別大差ない体制といえる。ただ、日本では当たり前の午睡チェックはないし、遊んだおもちゃは出しっぱなしなど、よほど日本の方が丁寧で手厚いように感じたが、その分子どもとゆったりと関わることができているようには思われた。訪れたときはちょうど昼食時で、乳児の子どもたちがランチを食べていたが、先生が切り分けたパンに、テーブルの真ん中に置かれた皿から自分で好きな具を取ってオープンサンドにして食べていた。衛生の問題はともかく、取り合いのケンカをすることもなく静かで和やかなランチタイムであることに驚いた。あえて一人分に盛り付けないのも、自分で必要な分を見極めて取れるようにするためなのだそうだ。

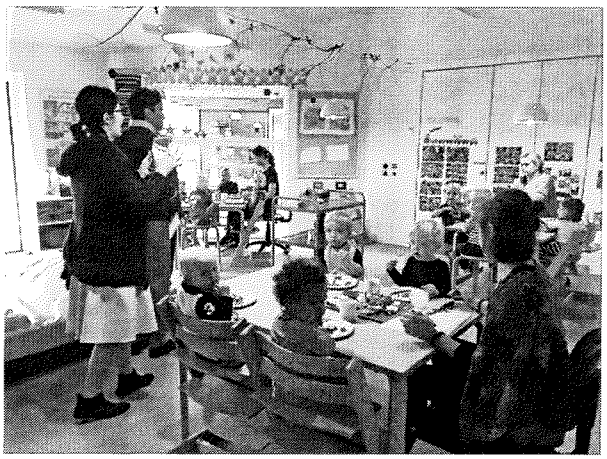
さて1週間の視察を通じて感じたことは、デンマークが福祉先進国と言われるのは、決して介護や保育そのものの内容や質の違いによるもの

ではないということだ。むしろ、日本の介護現場からすれば、一人で歩いている高齢者をスタッフが見守りをしなくてもいいのだろうか、ここで転倒してしまったらどうするのだろうという気になるし、保育にしても、なぜそんなに小さな子どもに給食を取り分けさせるのだろう、そしてケンカにならないのだろうと不思議に思う。これには、自分のやりたいことは自分で決める、という自己決定の文化が根付いていることがあるのではないだろうか。

自己決定というと、何でも思うがままにすることと考えれば聞こえが良いが、裏を返せばその結果に対して自分で責任を取るということでもある。日本で最近流行りの「自己責任」というものとも違っている。自分でできることは可能な限り自分でする、その代わりできないことに対しては社会が支える、という社会と個人との関係が成熟しているということでもある。お金を払っているのだから、何でもやってもらって当たり前、責任も持って当たり前、ということではなく、自分でできないところを助けてもらえれば満足という、いわば満足のハードルが低いことが、同じ中身でも感じる幸せが違うことに繋がっているのかもしれない。もはや、ハードやソフト、制度の違いということではなく、文化的な背景、土壌の違いということが大きいのかもしれない。そういう意味では、デンマークが福祉のユートピアだといって、そのまま日本に持ち込んでうまくいくとは限らないということだ。

ただ、うらやましく感じたことは、さすがにデザインの聖地、デンマークだけあって、建物、家具や調度品はどこもオシャレで美しかった。画一的な蛍光灯に会議机、スチールロッカーなどなく、間接照明、ウッドテーブル、オブジェなど、全体の統一感もあって空間そのものが気持ちよい。持ち帰って真似をしたいが全くもってセンスに自信がなく、これこそハードやソフトを超えた文化の問題、といったところか。

1週間余の視察を終えて、デンマークの福祉の現場や文化に少し触れることができたことと、全国の同じ立場にある青年たちの熱意と行動力に大いに刺激を受けて帰国の途に就いた。



海外研修生ウィラーさん実習報告

「研修を通じて」

初めまして、ウィラシニー・ゼーペーです。タイから来ました。全国社会福祉協議会の研修生です。10月1日から1月18日まで、社会福祉法人宝山寺福祉事業団で研修をしています。どうぞよろしくお願いします。

ここでは色々な事を学んでいます。まず子育てを勉強しました。愛染寮といこま乳児院では、子どものために安全と安心が大切ということを学びました。子ども達は可愛いです。

2～3歳の子ども達が自分で着替えたり、ご飯を食べたりしているのは良いことだと思いました。タイでは大人一人に対する子どもの人数が多いので大人が全部しています。乳児院では夜勤をしました。新しい経験をさせていただき、興味深かったです。

いこま乳児保育園でも研修をしました。子ども達と一緒に散歩をしたり、歌を歌ったり、絵本をよんであげたり、とても楽しかったです。職員は、子どもの活動や発達について、いつも連絡帳を書いていました。お願いごとなども書きます。また、月に一回クラス毎の目標を決め、手紙で保護者へ送ります。職員と保護者が協力し合って、一緒に子育てをしていることはとてもよいことだと思いました。

その次は、こども支援センターあすなろにて研修をしました。職員達は、子ども達それぞれに応じた活動を考えて働きかけていました。私も、リズム運動やわらべ歌の遊びを一緒にしました。マカトンを使うなど、子ども達にわかりやすそうでした。

12月に入り梅寿荘地域包括支援センターにて研修をしました。ここは介護や健康、高齢者の権利を守ることなど、様々な相談を受けたり、暮らしやすい地域のために、必要な機関とのネットワーク作りを行います。地域包括支援センターのシステムは難しかったですが、職員の方々が優しい言葉で教えてくれました。ご利用者がどうやってサービスを使うことができるか、手続きや相談のしくみなども学びました。文書は漢字ばかりですから、分かりやすいようにふりがなをふってくれました。

はあとぽーと梅寿荘で研修をしました。法人の基本理念である“興法利生”をヘルパー全員が大切にしていることがわかり、仕事というだけでなく、心を込めて行うことを皆さん大切にしていました。

ご利用者様宅にも一緒に訪問させてもらいました。色々な話をご利用者様とできたことが本当に楽しかったです。こちらも新しい経験でした、ありがとうございました。

これからもまだ他の施設での研修が続きます、頑張ります。

職員の方には本当にお世話になっています。良い経験や良い関係作りができていると思います。困ったことがあった時には、皆様が手伝ってくれます。本当にありがとうございます。タイに帰国したら、私はボランティアのコーディネーターをしているので、こちらでの経験を皆に紹介していきたいと思っています。児童だけでなく、高齢者・障害福祉についても学んだので、タイでも仕事に活かしていきたいです。

法人主任研修

主任研修を終えて

●延寿　生活相談員
飯塚耕平

3日間の研修でしたが、日常業務では補えない部分の学びを得ることができました。日常業務を行い、ケースバイケースの対応をすることで、その都度自身の行動や考え方が変わり、それが自身の成長につながると考えていました。しかしながら、改めて座学や他者と交流して学ぶことで自身に変化があることに気づかせて頂きました。

人事考課の単元では、物事を客観的に見て評価することが重要であることを理解しました。人はそれぞれ生まれや育ち、学んできたことが違います。しかしながら、「仕事の経験が長い」というだけで評価を感情的におこなう事があるように思います。この単元で学んだことは、そういった本質から外れている評価基準を見直す良いきっかけになりました。対人援助の仕事は成果が目に見えにくい仕事と言われています。だからこそ、評価基準を正しく理解しておかないと、人材育成や組織作りが発展していきません。たくさんの事例を挙げていただきながら学んだことにより、様々な事例に対応できるようになりました。今後は自施設で効果を行う際に学んだことを正しく発揮すれば、良い評価を行っていけるはずです。そうすることで、幅広い人材育成が可能となり、組織を発展することが出来るはずです。また、自身が成長することにより後輩たちにも的確に助言できるようになるはずです。

リスクマネージメントの単元では基本的な考え方や、様々な視点を学ばせて頂きました。グループワークが中心でしたが、やはり職種や立場により、ものの見方や視点が違うことが印象的でした。仕事を積み重ねていく間に様々な経験をします。その経験や知識で困りごとが起こった時の判断を行います。対象や事象は職種によって変わりますが、基本となる考え方は同様であると、ワークを通して感じました。引き出しがたくさんあればあるほど、リスクに対しての対応は良くなります。しかし、リスクが起こってから対処するのではなく事前に予測して手を打っておくことが上位等級者には求められているのだと学ばせて頂きました。3日目の単元にも繋がるのですが、私はリスクの課題を災害対策に設定しました。災害が起こった時に「想定外」「予想外」は、通用しません。かといって、災害を起こさないことも出来ません。我々が最大の災害を想定して、準備しておくことが最善のリスクマネージメントになります。そのための準備をこれから行っていくこと、そしてその想定を行うための情報収集や研修会、訓練を行うことが必要であると認識しました。

最終日は社会福祉法人について学ばせて頂き、私たちの仕事の原点にある思想の理解が出来ました。また、法人の組織図を確認することにより、自身の立ち位置や、役割、果たすべき責任が理解できた気がします。午後からは、情報交換会として「災害に強い施設」という題材で、他の施設の方と情報交換を行いました。それぞれの施設で役割が違いますが、それぞれの立場で災害を想定して準備を進めていることが同じ法人の職員として頼もしく思えました。

最後になりますが、研修に携わってくださった皆様に感謝申し上げます。実際に研修を行って下さった講師の方々、準備して下さった研修委員の皆様、施設に残り我々を研修に送り出して下さった方々、全ての方々に支えられた研修であったと思います。今後も自身の施設の事だけではなく、法人の仲間達の事を思いながら研修の成果を活かせればと思います。ありがとうございました。

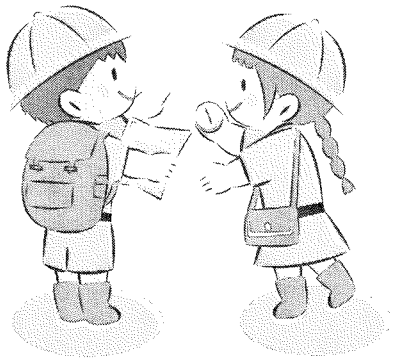
ボーイスカウト40年記念式典

次の50周年に向けて

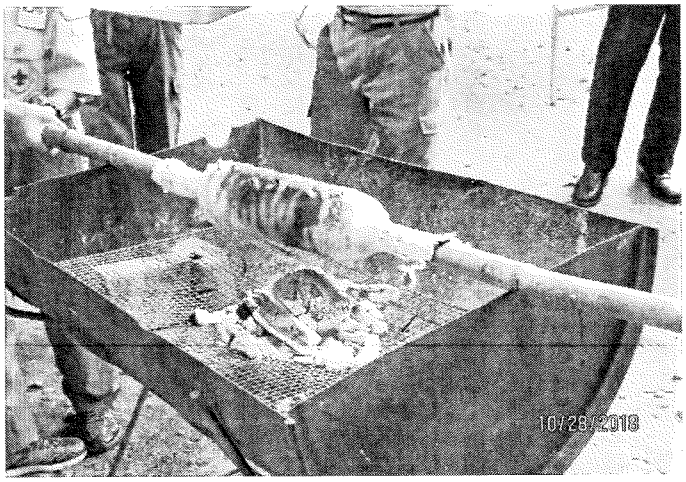
愛染寮　副主任家庭支援専門相談員
菅尾　明史

平成30年10月28日にボーイスカウト生駒第1団再発足40周年記念の集いが行われました。早いもので30周年から10年の月日が流れました。10年前にはキャンプ場にツリーハウスを作り、当時の生駒市長の山下氏も喜んで登って下さったことを思い出します。

この10年で地区の他の団も合併があり、全国的にもスカウト数の減少がみられました。わが生駒第1団においてはスカウトの数は多くないものの一定数は確保している状況です。そんな中40周年を迎えることが出来たのは喜ばしいことと思います。



セレモニーでは生駒市長代理の八重氏や綿谷県連盟長、諸熊地区委員長をはじめ多くの関係者の方に出席して頂きました。辻村育成会長より生駒第1団の発足からのあゆみについて話がありました。先人たちがつないできたスカウト活動への想いや伝統を絶やさないようにしないといけないと改めて感じました。滝寺境内での第1部のセレモニーを終えると、場所をキャンプ場に移して第2部の「ティーパーティー」です。



会場の滝寺キャンプ場ですがこの度炊事場等を改修しました。屋根を葺き替え、楕円形の釜戸を撤去し新たに横一列の釜戸を設置しました。屋根は一面だけ外にせり出すようにして雨がしのげるスペースも増えました。また老朽化していた柵も太い丸太の棒で設置しました。非常にタイトなスケジュールの中、ボーイの仲間でもある千葉住建さんに無理をお願いし完成しました。

ボーイ隊のみんながこの日の為に試行錯誤して何度も作ったバームクーヘン。竹の棒に液状の生地をつけては焼き回し、何層にも焼き上げていきます。新しい釜戸で沸かしたお湯でコーヒーや紅茶を飲みながらバームクーヘンを召し上がって頂きました。10月末ということもあり大変寒い中でしたホッと温まるひと時になったのではないかと思います。最後はキャンプ場内にあるひめゆり荘の囲炉裏でお披露目会として、みなさんと懇親を深めました。

わが団には宮本愛染寮名誉寮長をはじめ長年在籍されているレジェンドの団委員の方々がいらっしゃいます。その方々のお知恵も拝借しながら今の時代に即して生駒第1団がどのように活動していくのか50周年に向けてのビジョンをみんなで考えていきたいと思います。

最後になりましたが当日お手伝いくださいました法人の施設長の皆様、いつも生駒第1団に協力支援してくださっている関係者の方々本当にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

月曜会研修ダライ・ラマ14世
「平和の祈り」

子ども支援センターあすなろ　センター長　西野　敦

私たち月曜会（月曜会とは法人の施設長19名の集まりです）では、今年度県外研修として、ダライ・ラマ14世法王の講話を拝聴する機会を頂きました。このような機会は、一生に一度あるかどうか分からない本当にありがたい研修でした。

会場の福岡県、東長寺は、真言宗九州教団の本山で、山号は南岳山。本尊は弘法大師様で、寺伝では大同元年（806）、唐から帰国した弘法大師が、密教東漸を祈ったと伝えられているそうです。

弘法大師創建の寺としては日本最古で、当初は海辺の地にあったそうですが、福岡藩二代藩主・黒田忠之によって現在地へと移ったそうです。

このような歴史ある東長寺での講話ということで、ますます貴重な機会を頂けたことに深く感謝する次第です。

当日、時折、激しい雨が降り注ぐ境内では、数百人の方々が法王のお越しを待っていました。私たち職員一同も本堂内の席を頂き、心待ちにしていました。

会場の東長寺に向かう途中、最寄りの駅も大変混雑していました。そのため、法王を乗せた車が交通渋滞に巻き込まれたそうで、予定より少し遅れられるとのことでした。

その間、我が法人の辻村理事長をはじめ、多くの高僧の皆様が先にご入堂され、本堂の内外にお集まりの来場者と共に般若心経を唱えました。

来場者で埋めつくす会場の読経は、激しい雨の音を打ち消すかのように大きく響きわたり、一同一体となって、平和への思いを込めて唱えました。

しばらくして、いよいよ、法王がお見えになりました。そして、最初にチベット語で般若心経を唱えてくださいました。

今回の法王の来日目的は、平成28年の熊本地震や同30年の西日本豪雨、更に北海道の地震など、日本で相次いだ自然災害の犠牲者の皆様を悼み、祈りをささげるとともに、被災地の早期復興を願う「祈願法要」でした。

そして、その祈りとともに西方浄土へ祈願してくださるものでした。

また、法王は多くの方々に21世紀の仏教徒になってほしいとの強い願いをお持ちでした。

講話の後半は会場の皆さんからのご質問に懇切丁寧にご回答をいただき、あっという間のひと時でした。

日本だけでなく、世界各地では、異常気象と思われる自然災害が多発しています。常緑樹の伐採や森林破壊が異常気象を呼び起こしているとも言われています。今、私たちができることは微力ではあると思いますが、この美しい地球を次世代に引き継いでいけたらと願っています。

また、異常気象を止めることはできないでしょうが、世界各地で起こっている戦争、紛争、テロ行為などは人間の考え方次第でなくすことができるのではないでしょうか？

法王のお話を拝聴し、私たちもあらためて平和な朝を迎えられる日々の有難さを実感することができた研修でした。ありがとうございました。

全国表彰

厚生労働大臣表彰 受賞の喜び

愛染寮
調理員等　奥悦子

この度は、「厚生労働大臣賞」を頂き身に余る思いでいっぱいです。

平成元年12月に愛染寮に採用していただき、30年になります。その間卓さんの子どもたちが巣立っていき、その度に職員一同で子どもたちの成長を願い見送ってきました。その後、彼らが結婚し、子どもを連れて楽しき我が家に帰ってきてくれた時は、とてもうれしかったです。これも長い間この仕事をさせて頂いたお陰で子どもたちから沢山の喜びやしあわせを頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも沢山の子どもたちが楽しき我が家「愛染寮」に帰って来てくれるように頑張っていきたいと思います。

本当にありがとうございます。

全国社会福祉協議会会長表彰を受賞して

仔鹿園
保育士　雄谷恵美

私が就職したのは、平成元年のことでした。子ども達の生活の場としての“愛染寮”で寝食を共にしながら、時には子どもと本気でぶつかり、また色々な経験を積んで一緒に成長し、喜びや悲しみ・苦しみなども共有してきたように思います。あっという間に12年が過ぎる頃、異動を告げられ“仔鹿園”での生活が始まりました。“第2のわが家”を出た寂しさと何とも言えない複雑な気持ちを引きずったままで、また仕事内容も全く異なったなかで戸惑いを隠せずに一年が過ぎたものでした。それも今では仔鹿園に通う子どもたちや仲間たちと過ごす事が楽しくなり心地良い居場所に変わっています。

改めて振り返ると、たくさんの方々に支えられてここまでやってこられたということに感謝しかありません。年数だけでまだまだ中身が伴っていませんがこれからも努力し学んでいきたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。ありがとうございました。

全国社会福祉協議会会長表彰 感謝

極楽坊保育園
保育士　中美恵

この度、社会福祉事業に永年携わってきたということで、大変ありがたい表彰の機会をいただきました。

ご縁をいただいて、法人でお世話になってから、30年が経ちました。

振り返れば、代々の園長先生をはじめ、たくさんの先生方がいつも気にかけ、温かく見守って下さっていました。また、毎日笑顔で抱きついてきてくれるかわいい子ども達が、そばにいてくれました。たくさんの方に見守られ、支えられ、励まされ、保育士として、1歩ずつ歩むことができたと思っています。

これまで勤めさせていただいたことに、改めて感謝をし、これからも、子どもが安心して過ごせる環境づくりを心がけ、より一層の努力をして、子どもが健やかに育つよう温かい保育を進めていきたいと思います。

ありがとうございました。

平成30年度 法人永年勤続表彰

中　美恵　極楽坊保育園・副主任保育士・30年
新谷由里　仔鹿園・栄養士・事務員・30年
井上　太　延寿・施設長・35年
河井　治　養護老人ホーム梅寿荘・介護職員・40年
辻村泰範　梅寿荘・施設長・45年

全国レベル表彰受賞

○厚生労働大臣表彰
奥　悦代（愛染寮・調理員等）

○全国社会福祉協議会会長表彰
雄谷恵美（仔鹿園・副主任保育士）

○全国社会福祉協議会会長表彰
中　美恵（極楽坊保育園・副主任保育士）

○全国老人福祉施設協議会会長表彰
森本公子（梅寿荘デイセンター・センター長）

○全国老人福祉施設協議会感謝状
菅尾良博（デイセンター延寿・介護職）

○全国老人福祉施設協議会感謝状
玉利美保（はあとぽーと延寿・主任サービス責任者）

○全国老人福祉施設協議会感謝状
石井　恵（はあとぽーと延寿・ヘルパー）

○全国老人福祉施設協議会感謝状
長岡時喜子（ケアハウス　延寿　生活相談員）

○日本保育協会会長表彰
城山裕恵（いこま乳児保育園　保育士）

○日本保育協会会長表彰
辰己章子（いこまこども園　保育士）

RUN伴を通じて

生駒市梅寿荘地域包括支援センター
認知症地域支援推進員　田中英子

10月7日（日）天候に恵まれ、「RUN伴2018」に宝山寺福祉事業団からは53名と多くのエントリーがありました。今年度は生駒市が奈良県のスタート地で、生駒～奈良横断ルートの第一区を当事者様、家族様、辻村理事長、支援者が一団となって走り、生駒市役所から南生駒を経由してやすらぎの杜延寿（7.6キロ）までタスキを無事繋ぐことが出来ました。沿道では地域の方に応援していただき、本当にありがとうございました。宝山寺福祉事業団の団結力を改めて感じ、その一員である事がとてもうれしく感じました。終了後は、お疲れ様会を行い、ヘルパーさん手作りの豚汁やおむすびを頂きながら、走っている風景を撮影したビデオを観て和やかに過ごすことが出来ました。

RUN伴に生駒市では5年前から参加しており、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目指して、みんなでタスキをつないで走る日本縦断タスキリレーマラソンです。生駒市でも高齢化は進み、認知症高齢者は増えています。団塊の世代の方が75歳以上になる2025年には全国で約730万人の方が認知症になると予測されています。だれもが認知症について理解を深めて、認知症の人にやさしい街に一緒にしていきましょう。

年頭連絡会　新しい歴史が始まる年

仔鹿園　主任　稲田　桂子

1月18日、菖蒲池のイリスウォーターテラスにて年頭連絡会が行われ、辻村泰範理事長より年頭の訓辞を頂きました。

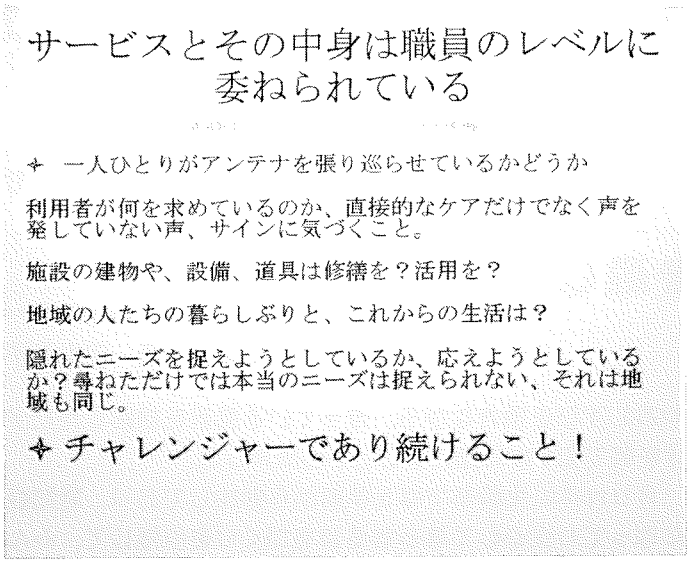
冒頭、今年は己（つちのと）亥（い）年。

漢字には意味があり「己」は長い糸の先端の意で始まりを表し、「亥」は骨組みが出来あがるの意で核の意もあると教えて頂きました。

図らずも、この日は創始者である辻村泰圓氏のお誕生日。

法人の長い歴史の糸の始まりであり文字通り宝山寺福祉事業団の核となられた辻村泰圓氏に思いをはせました。

『新しい歴史が始まる年「己」、全ての骨格が整っているのだから「亥」 新しい年の気概を持って！』とのお話がありました。



理事長のパワーポイントより

気概とは「困難にくじけず強い意気」「私は成し遂げる！」という強い気持ちの事です。サービスとその中身は職員のレベルに委ねられています。

職員一人ひとりが法人の基本理念である「興法利生」を再確認しつつアンテナを張り巡らし隠れたニーズまでもキャッチする事ができるように、そしてチャレンジャーであり続けられるよう、もう一度帯を締めなおし励みたいと思います。

訓示

編集後記

昨年から平成最後のという言葉がよく使われていますが、本当にいよいよ後２か月足らずで幕を引こうとしています。元号が変わったとしても私たちには何も変わることなく今まで通り日々が繰り返されるだけですが…でも、すこし淋しい思いがします。新元号は何になるのでしょうか！もうすぐ発表されると思うと楽しみですね！どうぞ、平和な世の中でありますように、そして皆様にとりましても新しい年も、新しい時代も幸多いものでありますよう心からお祈り申し上げます。（森本）

お詫び

ひめゆり通信第155号で発送後に落丁のあるものが見つかりました。大変申し訳ありませんでした。万が一落丁のものがお手元に届いていましたらお知らせください。正しいものを送らせていただきます。